

2021年度 初芝富田林中学校・高等学校 学校評価

1 教育目標

本質を問い、本質を見極める力を養う

2 中期的目標

1. 広い視野と深い思考につながる授業展開と特色教育を行い、自ら考え行動できる生徒の育成
2. 明確な目標を持ち、積極的な進路選択につながる丁寧な進路指導とトップ進学校としての実績向上
3. 弛まぬ向上心に満ちた友好的な職場環境の整備
4. 選ばれる学校としての広報活動の実施

3 学校教育の自己診断と学校関係者評価委員会の意見

学校教育自己診断の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
<p>1. 学校評価 生徒のアンケートからは、「生徒のことを考えて指導してくれている」「授業内容に満足」「挨拶など社会に通用する指導」「進路に関する情報や指導」などの項目で90%以上が高評価を示しているが、「施設・設備」に関しては50%を割っており要改善の項目として目立っている。年度末に、図書室・自習室・体育館の整備・進路指導室の整備を行った。 保護者のアンケートからは、要改善の事項として、「施設・設備」「学校行事」が上がっている。学校行事に関しては、コロナ禍で工夫して実施してきたが人数制限とオンライン視聴で充分満足してもらえない状況ではなかった。</p> <p>2. 授業評価 年2回生徒によるアンケートを実施している。 100pt満点で75ptが達成基準とされているが、「総合評価」は中学1回目85.4・2回目84.7、高校1回目83.3・2回目84.7と、中高ともに高評価を得ている。点数の出にくい項目である「学習効果」に関しても、中学1回目81.9・2回目80.9、高校1回目78.8・2回目81.2も概ね高評価であるためさらに質の向上につなげていきたい。</p>	<p>1. 委員会の体制 保護者会会長・保護者会副会長・校長・教頭・主幹・事務長</p> <p>2. 委員会の実施日 2022年3月23日(水)午前10時～11時</p> <p>3. 自己評価の結果に対する評価 ①今年度の教育活動の報告 ②教育活動アンケート方向 ③進路結果報告 ④募集状況報告 ⑤施設設備について ⑥次年度に向けて 上記項目を中心に報告を行い自己評価に対して意見を伺った。 ・初芝富田林の良い伝統を残して欲しい ・進路実績向上に向けて、生徒のモチベーションが上がる工夫をして欲しい ・食堂についての検討はできないか ・入学者数減少に関しては教育内容を見える化する工夫が必要 ・次年度に向けては、委員会体制を有識者・地域の方にも委嘱</p>

4 本年度の取り組みと達成状況

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	次年度に向けての改善策
1 授業と特色教育	(1)授業の質の向上				
	①「問い」の重視	①「そもそもを問う」「なかなか答えの出ない問い」「答えのない問い」をなど「問い」を大切に授業展開で視野を広く持ち、自ら考えることを重視	①生徒の活動的な学びに繋がった「問い」を報告してもらい共有	①「問い」の質にはばらつきがあるが、生徒が自ら考える姿勢を持つようになってきている	①生徒から問いを出す授業に目を向けて「質問力」を鍛える
	②適正進度による指導	②コースに応じた適正進度を維持しつつもオンデマンド教材等の活用によるアダプティブに対応する工夫	②スタディサプリ・AIアプリなどの有効利用により数学や英語で効果的な進度での授業実践	②教科によっては、大学入試を見据えもう少し早い進度にする必要がある	②オンデマンド教材の有効利用の強化
	③コースの特色の強化	③グローバル特進の教育内容の充実と英語の取り組み強化 ・総合の時間を英語活動に充てる ・長期休暇中の英語PBL型語学研修を実施する	③生徒の英語使用頻度の向上と外国人との会話への抵抗感の払しょく	③総合の時間での英語活動の英語使用頻度を増やす必要がある	③オンライン英会話とネイティブ対面授業のハイブリッド型PBL形式の授業への切り替え
	(2)個別最適学習の充実				
	①朝読の充実	①朝読の徹底・ビブリオバトル実施・「はつとん珠玉の10冊」選定など絶対的な読書量に向けての仕組みづくり	①年間の既読冊数・ビブリオバトルでの紹介内容・関連企画実施で読みを深める	①朝読の実施は徹底できているが冊数管理に工夫が必要。ビブリオバトルは高学年ほど質が高く大阪の大会に出場	①難解な文への挑戦と読書会などの企画で読みを深める朝読を「富読」と命名し絶対的な読書量を獲得する
	②オンデマンド教材とAIアプリ有効利用	②英語・数学などでのオンデマンド教材・AIアプリの授業内実施及び朝読と隔日での実施	②スタサプ English の実施回数と進捗状況	②スタサプ English 中学1年で全国2位の実施状況。その他のオンデマンド教材・AIアプリは英数で授業内有効利用	②放課後HR時に毎日リスニングと多読の英語スキルアップを行う時間を「Tonglish」と命名し実施する 「富読・Tonglishノート」に記録しモチベーション高め共

	<p>③小論文指導の充実</p> <p>④探究活動の充実</p> <p>⑤放課後の有効利用</p>	<p>③高3春からの志望学部に対応した小論文指導の実施</p> <p>④中学は身の回り・議論について・企業とのコラボと3学年にストーリーができるように実施 高校はテーマ設定と探究の手法を学び興味ある内容を深く掘り下げる探究活動を実施</p> <p>⑤はつとんゼミの効果の検証と弱点の強化を行う</p>	<p>③推薦入試での合格実績</p> <p>④校内発表での評価や外部発表での評価</p> <p>⑤実力テストなどでの成績の向上</p>	<p>③国公立大学共通テストを課さない推薦型入試で50%の合格率</p> <p>④中3クエストでの全国大会発表や高2のベネッセの探究発表で準グランプリ・審査員特別賞など活躍</p> <p>⑤学年間の成績経年比較において大きな差がなく有効的実施が必要</p>	<p>有を行う</p> <p>③国公立大学共通テストを課さない推薦型入試の受験者数の増加と一般入試との並行対策</p> <p>④探究によるコースの特色の打ち出しを図る</p> <p>⑤飛躍的な伸長を図るため、はつとんゼミを「はつとん講座」と命名し効果を視野に入れた特色化を図る</p>
2 進路指導と実績	(1)進路方針の明確化	国公立大学・関関同立・産近甲龍・関東難関私大・医歯薬への合格に向けた取り組みの強化	合格実績 国公立大学 50 関関同立 100	国公立大学 54 (64)・関関同立 84 (117)・産近甲龍 152 (186)・関東難関私大 (早稲田・東京理科・明治・青山学院・立教・中央) 7 (15)・医歯薬 43 (55) ※ () は過年度生含む	難関大の合格者数のための富読・Tonglish・授業・はつとん講座の質の向上を図る 難関大のための新コースの設定
	(2)進路説明会の充実	業者による動向と教員による生徒を知っているからこそその情報を融合して信頼できる情報と果敢にチャレンジする意識付けを行う	生徒保護者の満足度	学校評価のアンケートで生徒中 80%以上・高 90%以上が満足、保護者中 70%以上・高 80%以上が満足	更なる充実のため進路データの蓄積と分析の強化
	(3)進対会議と出願検討会の充実	進対会議・出願検討会ともに生徒一人一人の進路に向けての検討を高3以外の学年の先生もオブザーバーで招き、丁寧な進路指導と進路指導の継承を図る	国公立大学の現役合格率 出願者数の 75% 在籍者数の 40%	国公立大学 82 名出願し 54 名の合格で 65%の合格率	進路指導の根幹であることの認識と継承の徹底
	(4)国公立推薦型入試の指導の強化	小論文指導を早期にはじめ、一般入試との並行対策を行う	国公立大学推薦型入試の合格実績	共通テストを課さない推薦型入試では 9 名合格し合格率は 50%を超えたが、共通テストを課すものでは 2 名の合格に留まった	推薦型入試合格者の報告からの詳細な分析と共有
3 向上心と職場環境	(1)教職員全員が参加する学校運営	会議での意見の出し方・全体の意見の吸い上げ・目標と総括の位置づけなど建設的な意見と合意のもと事案が決定されていく場を創る	学校の雰囲気と会議での意見の言いやすさと決定の経緯	意見の言いやすい雰囲気づくりはできたが起案手続きの丁寧さが課題	起案の仕方の共通認識を図る
	(2)リーダーの育成	管理職や主任・分掌だけでなくミドルリーダーの役割を重視する	企画力・実行力・発信力のあるミドルリーダーの起案を全体で共有	やる気のある若手の活躍の場を増やすことが課題	人事配当により副部長や教科主任に充てる
	(3)外部研修奨励	大学入試指導のための予備校などへの研修と授業力向上のための校内研修の強化	校内での共有	校内研修の充実が課題	授業力向上委員会を創設し研修の在り方や最新の授業研究を知る機会を増やす
4 入試広報	(1) 広報方向性の整備 ①コースの明確化	①グローバル特進探究の位置づけの明確化のため S 特進探究・特進探究英数・特進探究グローバルの順でコースを設定しなおし、グローバルでは英語強化を打ち出す	①中学・塾からのヒアリング	①校内でのコースの位置づけは明確になったが、外部からのわかりにくさやコース変更の多さに関しては未だ指摘がある	①③コースのわかりにくさを指摘されているが、成績上位層の入学に向けて難関大合格実績を根拠に最上位コースの設定を行い早期広報実施
	②特奨生制度整備	②プレテストや実力テストで出願前に特奨生を告知することで広報的效果を上げる	②特別奨学生の出願者数と入学者数	②中学では成績上位層の入学が数名・高校では入学者がなく成果と課題が浮き彫りになった	②中学は成果があったので高校では併願受験者対象に受験者数増加のために再整備
	③入試基準の見直し	③受験者層の向上を図るために特進探究グローバル・S 特進探究の基準を見直す	③受験者数と中学・塾からのヒアリング	③中高とも受験者の学力層が向上した	

	(2) 中学・塾訪問強化	出張説明会を中学入試 11 カ所・高校入試 5 カ所で実施した 天王寺・国分・八尾方面の新規開拓を行う	出張説明会参加者の受験者数と入学者数	中学入試では 69 名参加中 31 名が受験に繋がり 15 名が入学、高校入試では 40 名参加中 7 名が受験に繋がったが入学には繋がらなかったことから、高校入試の方向性見直しが必要 全般的な地域からの入学者数減となり地元への対策の強化も必要	出張説明会の年度始めに提示し、高校入試では校内説明会での内容の充実・地元と新規開拓を行う中で多くの受験者に学校名を知ってもらう
	(3) バス利便性向上	スクールバスの駐車場の増加と専用チラシの作成を行った	各駐車場の利用者数とチラシの効果検証	利便性の広報に一定効果はあったが決定が遅く次年度への課題となった	年度当初からバス利用による利便性と安全性の広報を行う